

平成30年度学校評価（職員自己評価） \*総合評価

「4」十分達成できている 「3」おおむね達成できている  
 「2」どちらかという達成できていない 「1」ほとんど達成できていない

種	重点目標		評価項目（具体的な取り組み）	評価
教務	授業ファースト	1	家庭学習・三点固定の可視化を行う。	3.2
		2	3年生系列授業の発表をする。	3.7
		3	2年生系列授業公開する。	3.5
	生徒募集 ・定員確保	4	オープンスクールや学校説明会を人気と好評のある媒体にする。	3.1
		5	中学校訪問の充実を図る。	3.4
	広報	6	viva! HIGH SCHOOL やCMで学校の様子がよく伝えられている。	3.4
		7	ホームページの更新頻度を高くし、活性化させる。	3.4
生徒指導	基本的な生活習慣 の確立	1	HR、授業、集会時の挨拶（語先後礼）指導を徹底する。	3.3
		2	掃除の10分間の無言作業を徹底する。	2.7
	生徒会活動	3	専門委員会顧問会・委員長会の実施する。	3.7
		4	行事の活性化の為、アンケート等の実施する。	3.2
	健康相談等 の充実	5	気になる生徒の情報を教員間で共有する。	3.1
		6	スクールカウンセラーや外部機関からの情報を活用する。	3.4
進路指導	高大連携	1	普通科総合選択制の特徴を生かし、長崎女子短期大学と充実した連携を図る。	3.1
		2	長崎女子短期大学の入試に向けて十分な指導ができた。	3.7
	進学指導	3	校外模試等を計画的に実施し、生徒の客観的な学力把握に努める。	3.3
		4	まなび講座の時間を確保し、計画的な学習指導を行う。	3.3
	就職指導	5	ハローワークと連携をはかり、就職率100%を目指す。	3.3
		6	SPI講座の時間を確保し、計画的な学習指導を行う。	3.4
1年	学習の習慣化	1	課題を確実に提出させることで学習の習慣を身に付ける。	3.0
	高校生活の定着	2	語先後礼の目標のもと、日常生活の中での挨拶を習慣化する。	3.2
		3	無言作業の目標のもと、身の回りの整理整頓を含めた清掃活動を定着する。	2.9
		4	その場に応じて、自ら判断して行動できる。	2.6
	キャリア教育 の充実	5	いろいろな職業を知り、自らの責任で系列、選択科目を選択する。	3.2
		6	系列ごとに集会を開き、次年度に繋げる。	3.3
2年	家庭学習の習慣化 と学力向上	1	家庭学習を十分に行えていない生徒に対して家庭学習を促す。	3.0
		2	欠点を取らないようにする。また、基礎力診断テストのGTZのD3の生徒を減らす。	3.0
	豊かな心を 育ませる	3	友人・教職員・来校者への挨拶を徹底する。	3.2
		4	日常会話の中での言葉遣いを意識する。	2.8
進路目標を 決定させる	5	進路講話やインターシップなどを通して自分の進路と向き合い、進路意識を強く持たせる。	3.5	
	6	生徒の進路目標を明確にさせる。	3.3	
3年	最高学年としての 自覚を持たせる	1	学校活動に積極的に参加し、思いやりの心とリーダーシップを育む。	3.0
		2	社会に通用する礼儀作法を身に付ける。	2.8
	学力向上、受験に対 応できる学力を養う	3	進路目標の達成にむけてプラスOneスタディを活用し、実力の向上を図る。	3.1
		4	系列学習での学びを深め、自分の考えを述べる表現力を養う。	3.2
	豊かな人間力を育 む	5	進路実現に向けて、積極的に行動する。	3.2
		6	キャリア教育を通じて、社会の動向に目を向け、幅広い視野を養う。	3.2
教育全般	普通科総合選択制 の構築と充実	1	スタンダードスタディを充実し、基礎学力養成の必要な生徒に対し組織的に指導を行う。	3.3
		2	ドリカムスタディにおける系列別授業・自由選択授業の検証(学期毎)と充実を図る。	3.3
		3	マイプラン(キャリア教育)の指導案を毎時間作成し、授業にあたる。	3.5
		4	プラスワンスタディの目的を生徒に理解させ、有効活用を意識させる。	3.3
	教育活動	1	4月導入期に関する検証をする。	3.3
		2	夏休み学習会に関する検証をする。	3.3
		3	各分掌・学年で継続的に指導を徹底する。	3.2
	職員研修	1	教科指導や生徒指導の資質向上のために日々研鑽に励む。	3.1
		2	分掌会・学年会を活性化し、計画的に組織としての教育実践にあたる。	3.1
		3	二人担任制の特性を生かし、クラス経営の充実を図る。	3.2